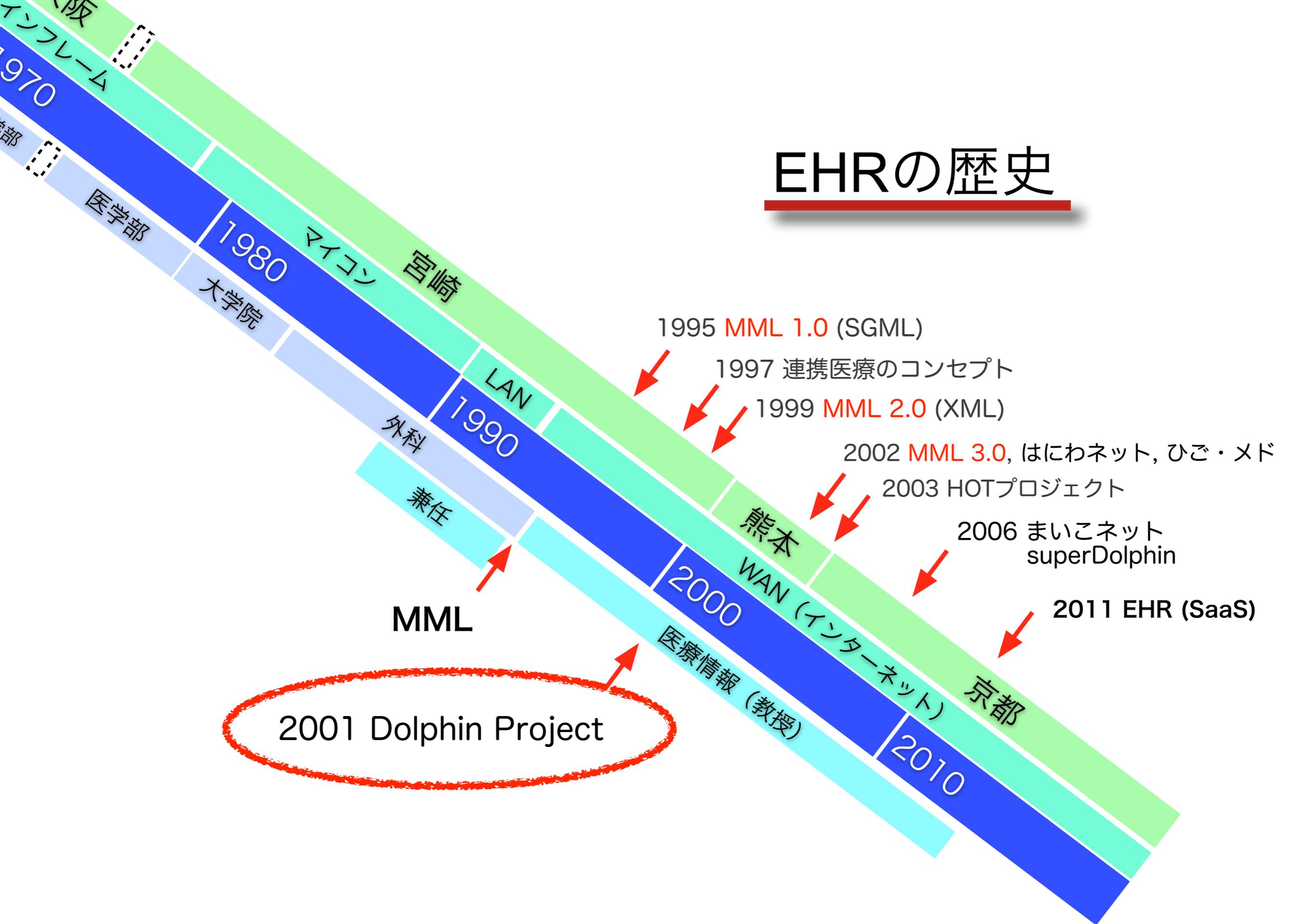


# 次世代EHR

# 1000年カルテ



# EHRの歴史



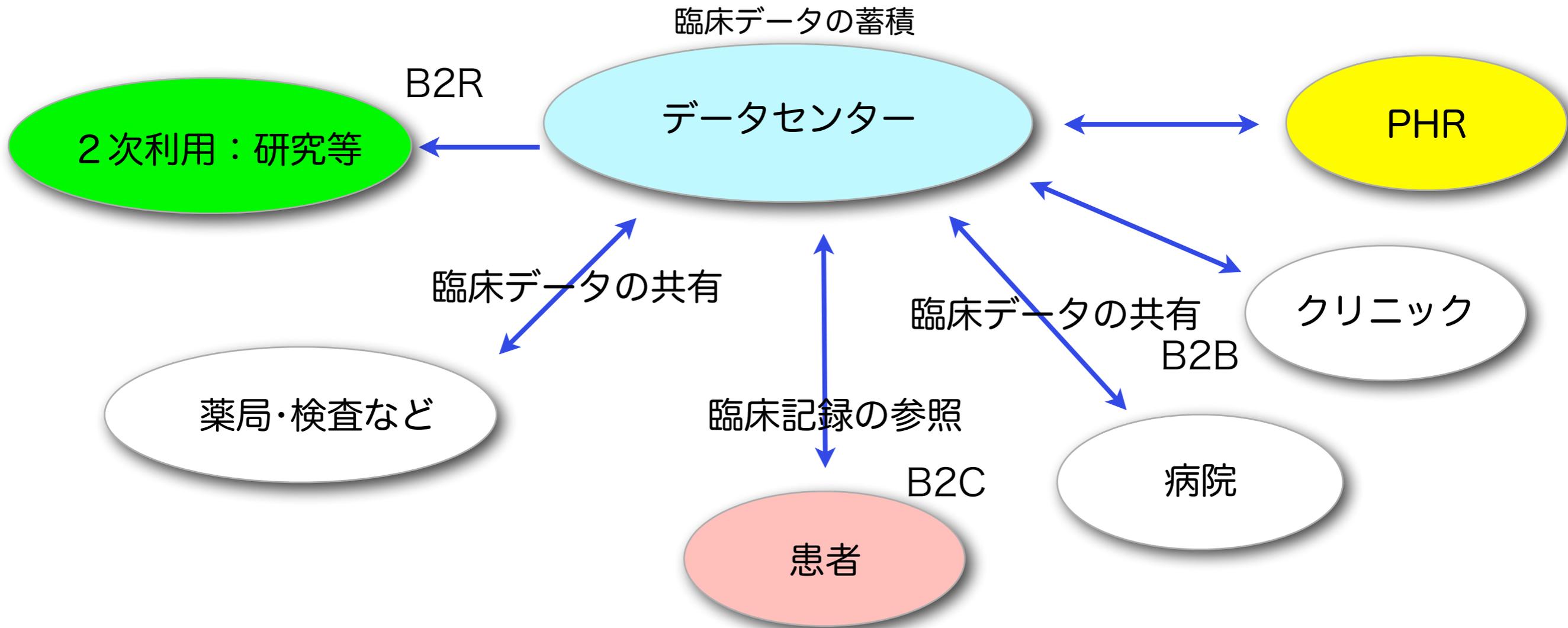
※ MML = Medical Markup Language, HL7 = Health Level 7

# 1996.5 第2回 Seagaia Meeting (39+1名)



# EHRの基本概念とサービス

- 0) 診療情報のバックアップ
- 1) 患者向け臨床データの開示 (B2C)
- 2) 医療機関同士のデータ共有 (B2B)
- 3) データの2次利用 (研究等) (B2R)



2001～

**実名系DB**（連携医療、開示等）

管理運営：NPO日本医療ネットワーク協会

<http://www.ehr.or.jp/>

2004～

**匿名系DB**（研究開発等）

管理運営：一般社団法人 医療統計情報プラットフォーム研究会

<http://cisa.jp/>

データセンター  
(iDolphin)

センター機能を提供

ながは  
まネット

まいこネット

AMCネット

琉球ネット

地域プロジェクト

国民的理解  
2017年？



延べ3300万人のデータ

DB運営は外部委託

企業系研究者

大学系研究者

匿名化臨床データ提供 #

国立大学病院

14の国立大学病院

研究などへの二次利用 (B2R)

# 臨床データ提供：

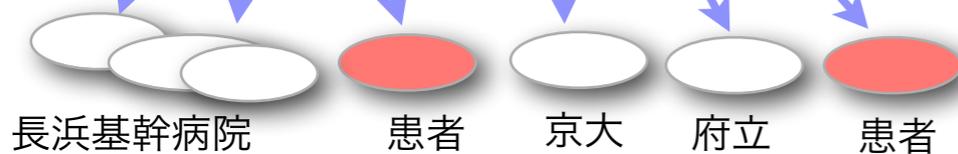
現時点では、処方データまでに留まるが、今後、**京大情報学研究科EHR共同研究講座を中心に、検査結果、各種報告書等のデータ収集とデータの標準化、精度の向上**を行う。

このデータベースを利用した研究の外部発表はすでに40を超えている。未公開研究、実務応用も多数。

1) 患者への情報開示 (B2C)

2) 連携医療 (B2B)

3) 医療関連サービス提供 (B2C)



長浜基幹病院

患者

京大

府立

患者

# 問題点

- 1) MML (使用規格) : 日本、中国のみ  
→国際化
- 2) 規格の乱立? MML、HL7、他  
→幅広い規格を容認 (包含)  
→最終的にISO13606へ収斂
- 3) EHRサーバが地域ごとに独立 (規格非統一、運営コスト)  
→SaaS/ Cloud
- 4) EHR運営母体の脆弱性 (大学、医師会、NPO、、、)  
→徹底的に税金? 2次利用も視野に入れた独立運営?
- 5) 国民医療ID  
→住基番号? マイ・ナンバー? 独自医療ID?

# 次世代医療ICT基盤協議会

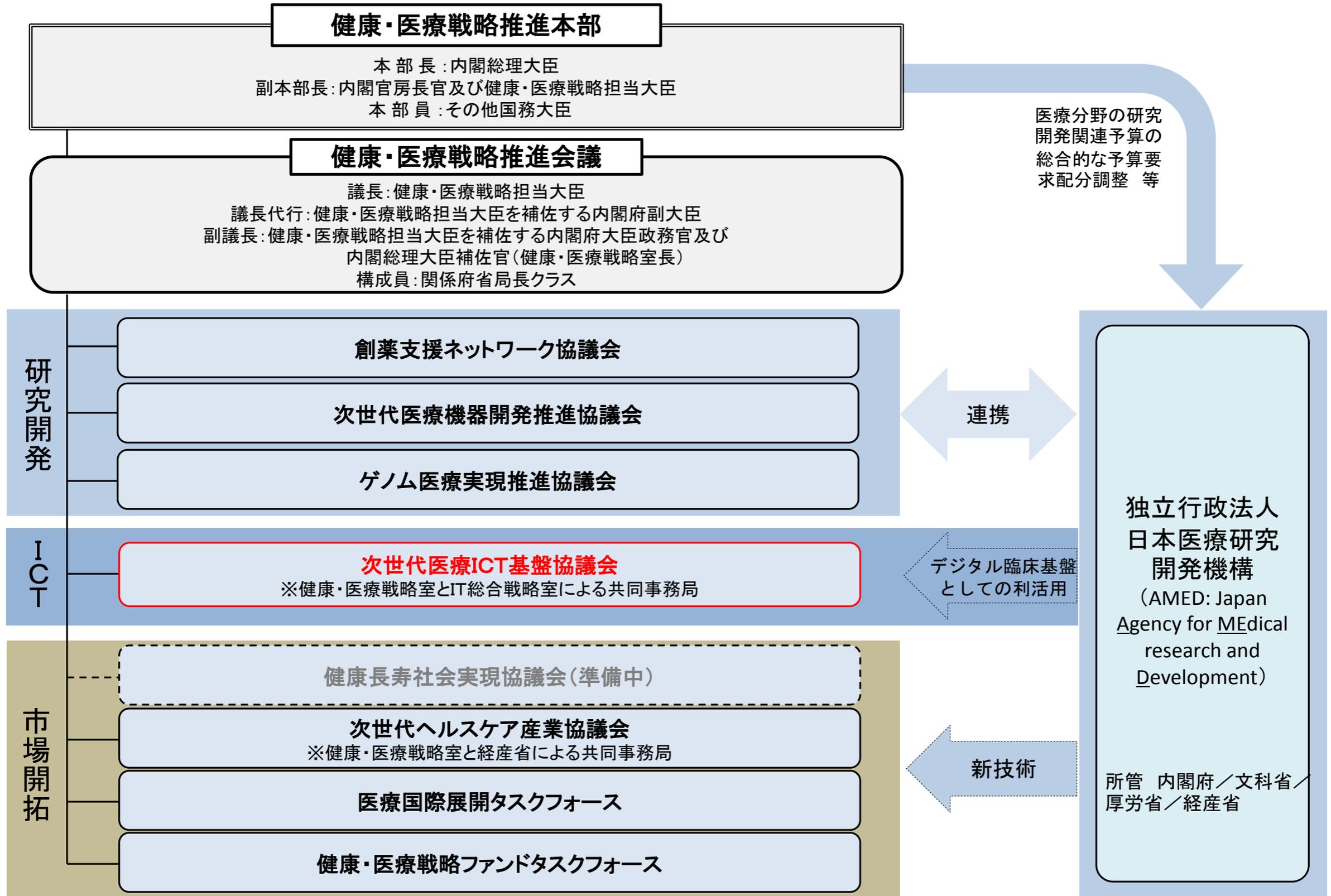
全国共同利用型国際標準化EHRプロジェクト

大規模健康・診療データの収集・利活用

宮崎大学・京都大学

**NPO日本医療ネットワーク協会**

NPO MedXMLコンソーシアム



## 第1回 次世代医療ICT基盤協議会 出席者

議 長 甘利 明 健康・医療戦略担当大臣  
 福田 峰之 健康・医療戦略担当大臣補佐官  
 和泉 洋人 内閣官房健康・医療戦略室長  
 飯塚 悦功 東京大学名誉教授  
 大江 和彦 東京大学医療情報経済学教授  
 大久保満男 日本歯科医師会会長  
 金子 郁容 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授  
 菊地 眞 公益財団法人医療機器センター理事長  
 喜連川 優 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立  
 情報学研究所所長、東京大学生産技術研究所教授  
 桐野 高明 独立行政法人国立病院機構理事長  
 近藤 達也 独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長  
 堺 常雄 日本病院会会長  
 神成 淳司 慶應義塾大学環境情報学部兼医学部准教授  
 末松 誠 独立行政法人日本医療研究開発機構理事長  
 田中 紘一 医療法人社団神戸国際フロンティアメディカルセン  
 ター理事長  
 永井 良三 自治医科大学学長  
 樋口 範雄 東京大学大学院法学政治学研究科教授  
 福井 次矢 聖路加国際大学理事長  
 堀田 知光 独立行政法人国立がん研究センター理事長  
 松本 純夫 独立行政法人国立病院機構東京医療センター名誉院長  
 矢作 尚久 独立行政法人国立成育医療研究センター臨床研究ネ  
 ットワーク推進室室長補佐（情報戦略担当）  
 山本 信夫 日本薬剤師会会長  
 山本 隆一 一般財団法人医療情報システム開発センター理事長  
 横倉 義武 日本医師会会長  
 吉原 博幸 宮崎大学医学部附属病院病院長

関係府省 田中 繁広 内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）  
 向井 治紀 内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室長代理（副政  
 府CIO）  
 南 俊行 総務省政策統括官（情報通信担当）  
 宇波 弘貴 財務省主計局主計官（厚生労働係第一担当）  
 安藤 慶明 文部科学省大臣官房審議官（研究振興局担当）  
 鈴木 康裕 厚生労働省大臣官房技術総括審議官  
 唐澤 剛 厚生労働省保険局長  
 安藤 英作 厚生労働省情報政策・政策評価審議官  
 岩瀬 忠篤 農林水産省食料産業局次長  
 富田 健介 経済産業省商務情報政策局長

オブザーバ 久間 和生 総合科学技術・イノベーション会議議員  
 大谷 泰夫 内閣官房参与

事務局 中垣 英明 内閣官房健康・医療戦略室次長  
 藤本 康二 内閣官房健康・医療戦略室参事官  
 堀内 直哉 内閣官房健康・医療戦略室企画官  
 平野 友貴 内閣官房健康・医療戦略室参事官補佐  
 角田 亮平 内閣官房健康・医療戦略室参事官補佐  
 石井絵利子 内閣官房健康・医療戦略室主査  
 永山 純弘 内閣官房IT総合戦略室企画官  
 篠原 淳一 内閣官房IT総合戦略室参事官補佐  
 望月 一佳 内閣官房IT総合戦略室参事官補佐

## ＜参考＞次世代医療ICT基盤協議会 ワーキンググループ

次世代医療ICT基盤協議会では、内閣官房の施策の実現に向け、各テーマごとに複数のワーキンググループを編成し、具体的な検討、システム整備に向け取り組んでいくこととなっています。

### 〔グループA〕 要素整備に関するWG

国・大学・学会等の既存データの収集・利活用事業の検討

### 〔グループB〕 環境整備に関するWG

医療情報の収集・利活用に関する取扱制度の調整

### 〔グループC〕 デジタルデータ収集・利活用事業の組成促進に関するWG(複数存在)

データ収集・利活用事業の組成促進、研究開発、新しい医療サービスの提供など自立的な事業を構成する要素・環境整備の検討

### 〔グループD〕 医療への次世代ICT導入に関するWG(複数存在)

医療施設への次世代の医療デジタル化の検討

⋮

### 〔グループE〕 次世代医療ICT環境と医療技術・手技・知識の調和に関するWG

### 「大規模健康・診療データの収集・利活用」

吉原博幸 宮崎大学医学部附属病院病院長  
荒木賢二 宮崎大学医学部附属病院医療情報部長  
黒田知宏 京都大学医学部附属病院医療情報企画部長

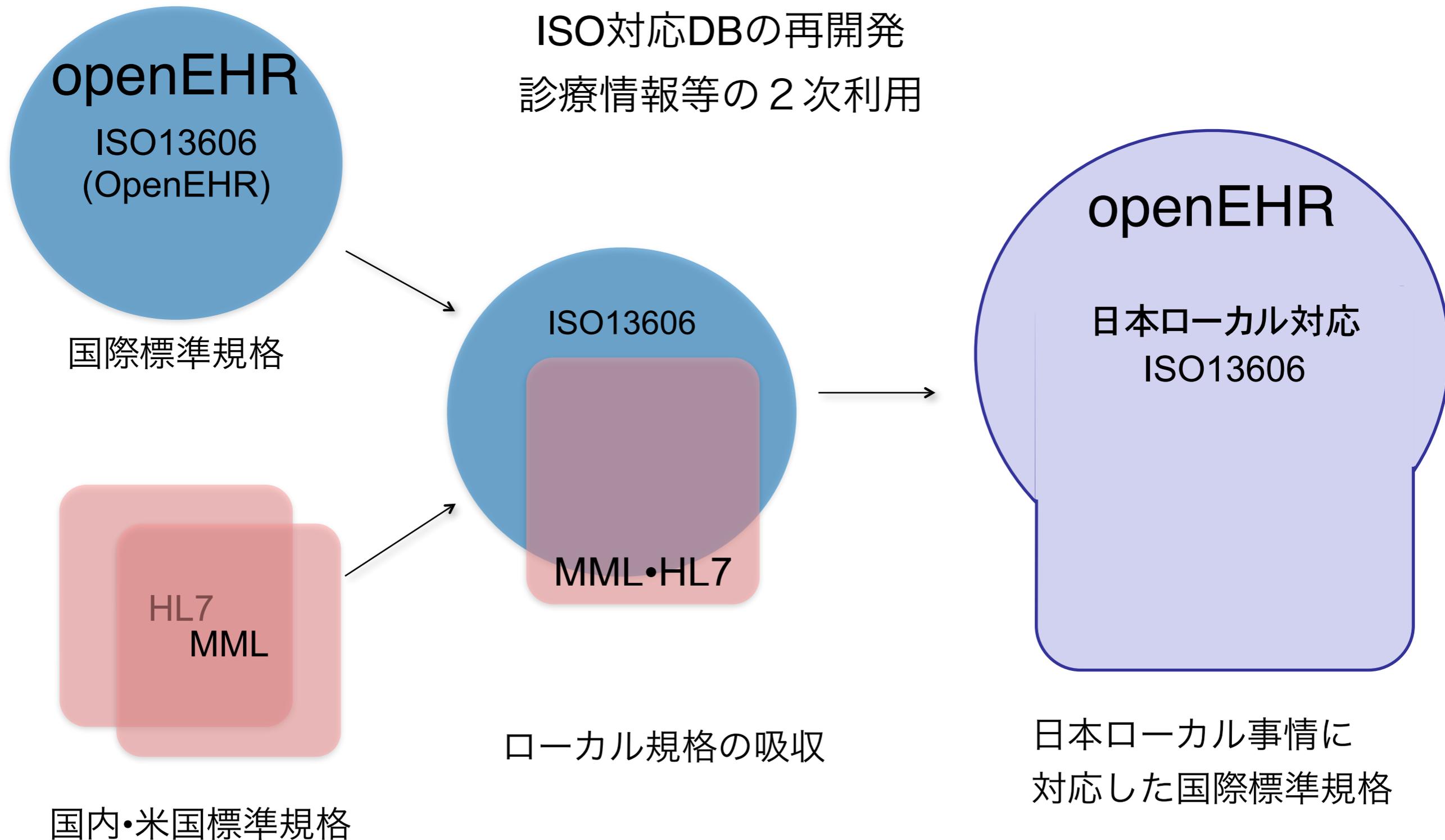
●全国共同利用型国際標準化プロジェクト(100年カルテ)は「グループCのWG」の一つとして実施の予定です。

# 提案

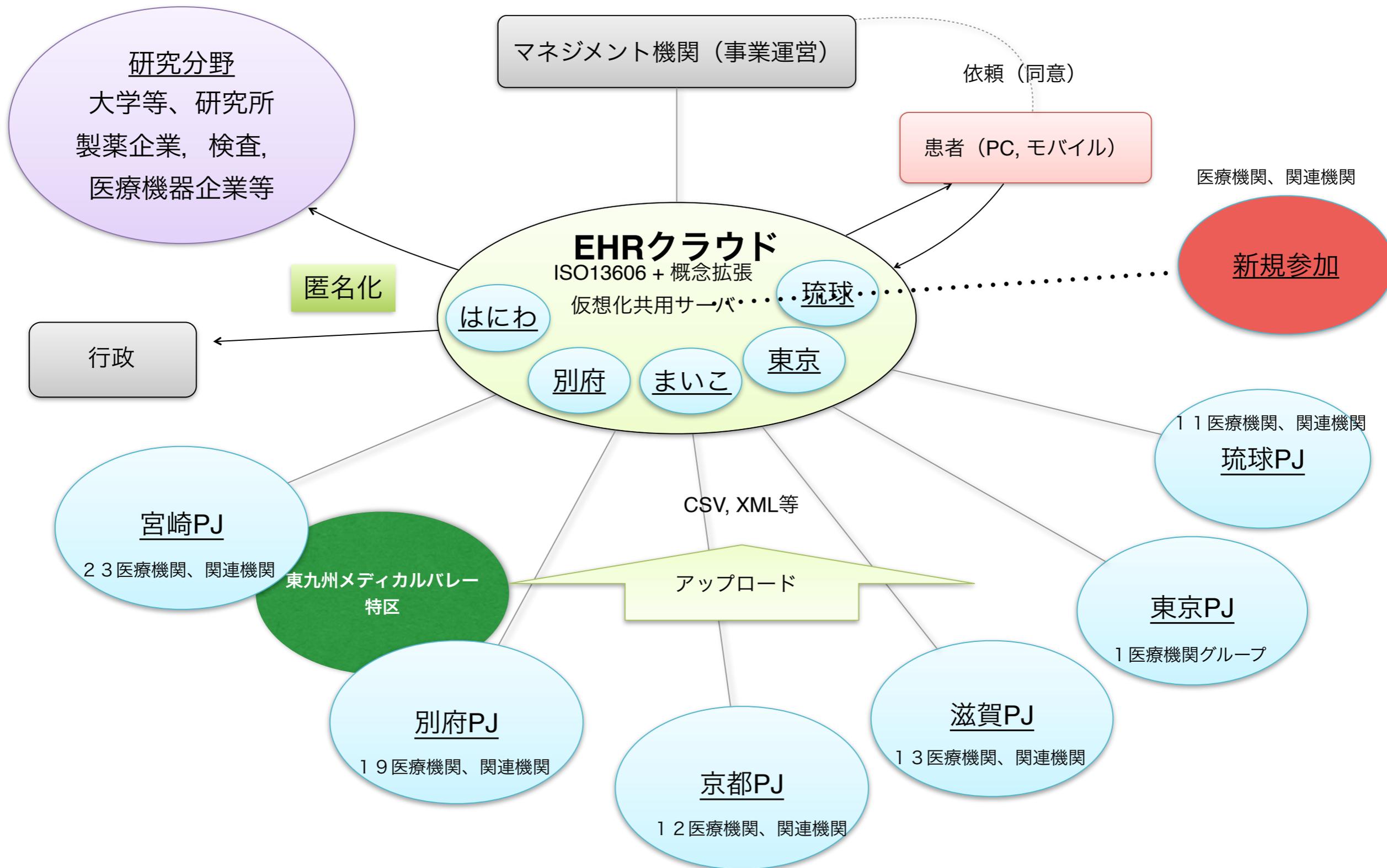
ISO13606/MML ハーモナイズ

ISO対応DBの再開発

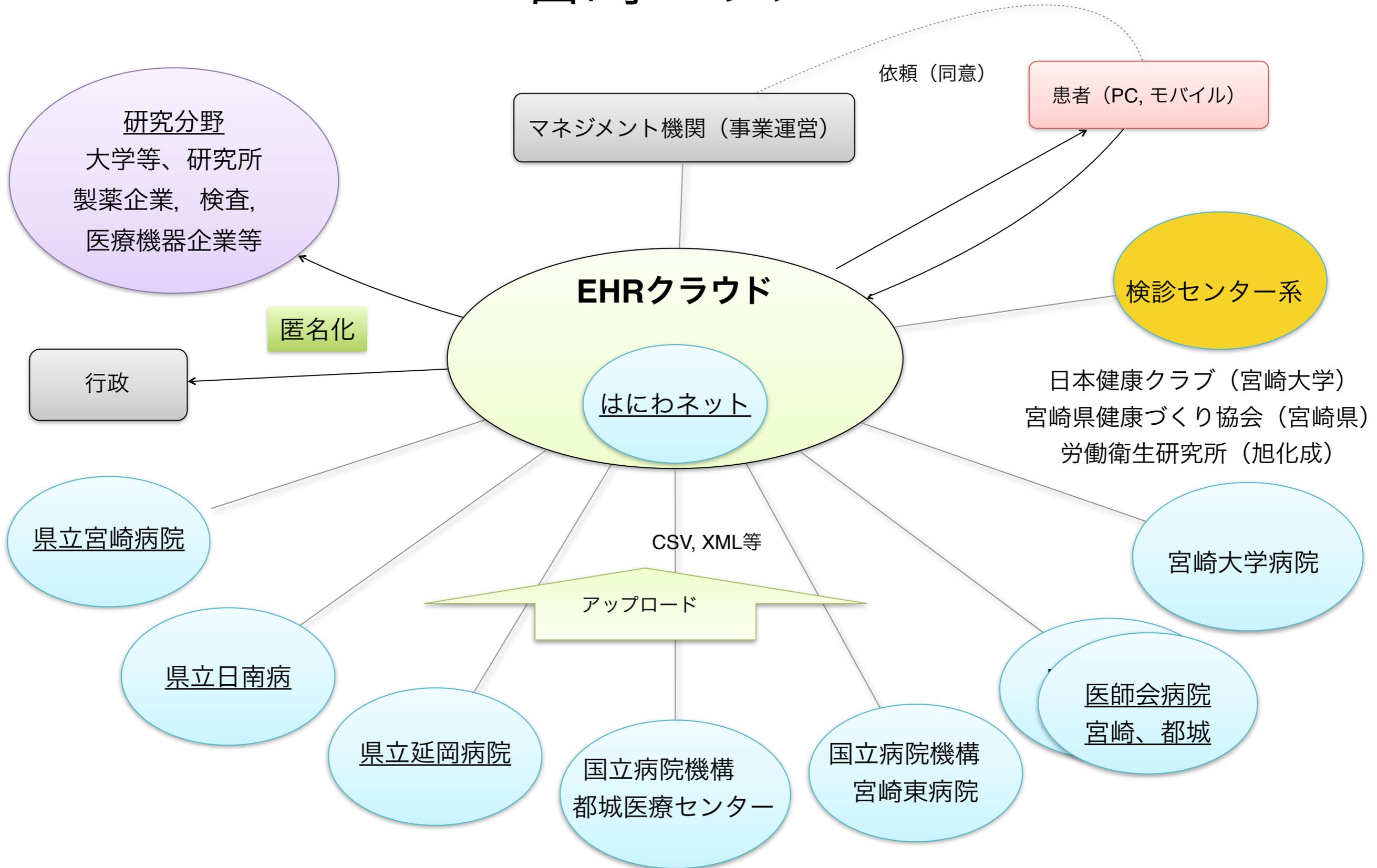
診療情報等の2次利用



# 1000年カルテプロジェクト



# 宮崎エリア



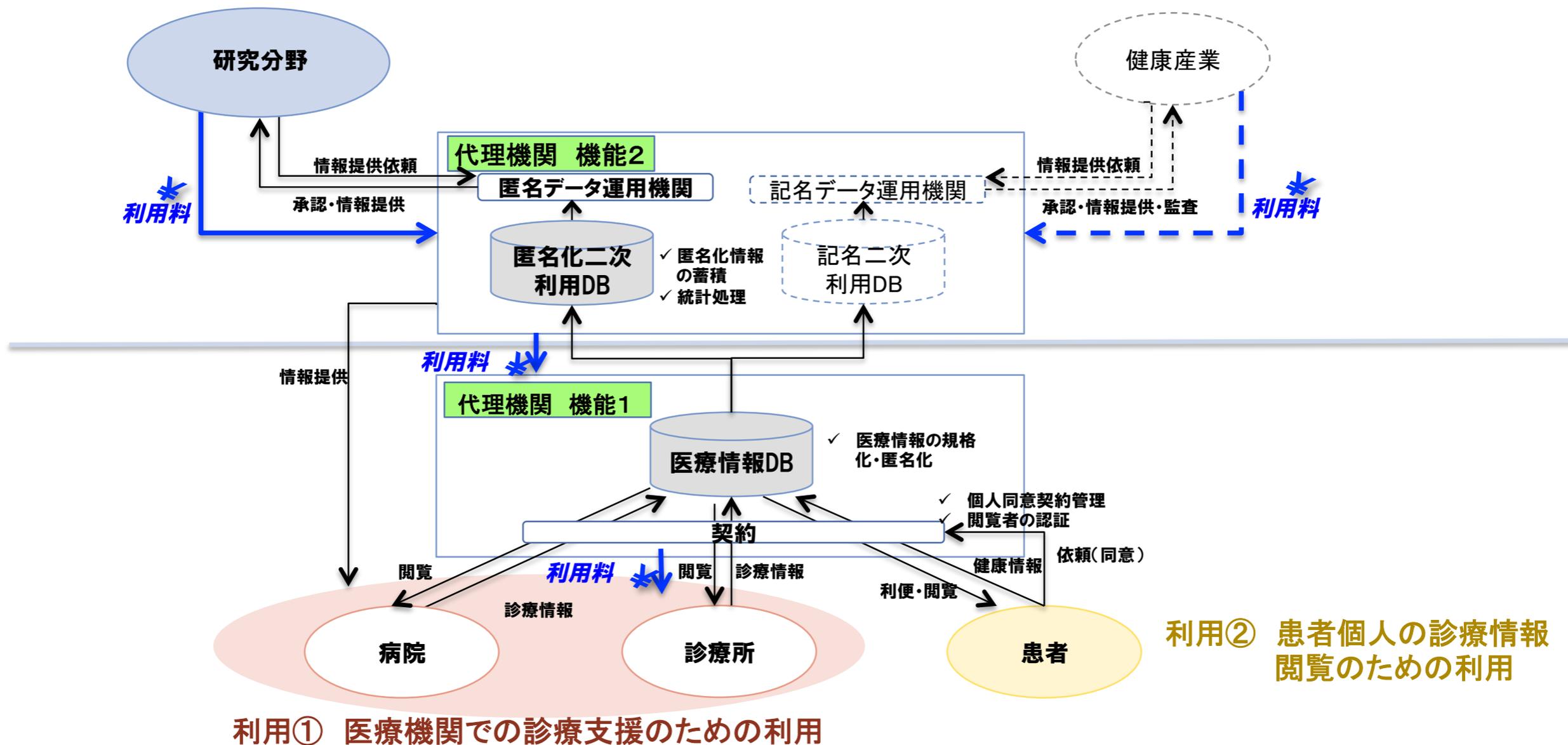
# WG-C-2 大規模健康・診療データ収集・利活用WG

## 利用③ 研究分野等による匿名データの二次利用

製薬企業、大学病院、検査・医療機器、医薬品卸など

## 利用④ 健康産業等による記名データの二次利用

- <健康産業等>
- ・病院、診療所、調剤薬局：電子お薬手帳による服薬管理
  - ・健康食品業界：疾患による食材配給、サプリメント提供など
  - ・介護センター：医療機関等と連携した介護サービスの提供 など



### <参加医療機関>

宮崎大学病院、京都大学病院、京都府立医科大学病院、大分大学病院、  
院、宮崎市郡医師会病院、国立病院機構都城病院、沖縄県立中部病院、  
診療所 30施設程度(宮崎県、京都府、大分県)、調剤薬局 30施設程度(宮崎県、京都府、大分県)、日本健康倶楽部(健診)

県立宮崎病院、県立延岡病院、県立日南病

# Road Map

EHR検討部会  
二次利用検討部会



(\*) 記名データの本格運用、及びそれに向けた機関・システム整備については、匿名化データの本格運用以降、将来的に検討・整備する。